

防災対策の現状

●国の対応：防災庁設置は保留 国土強靱化対策は推進中「スーパー堤防等」

●県の対応：被害想定 → 首都直下型震度 6 強(停電 1 週～1 月)

→ 東南海トラフ震度 6 弱 (停電 3 日～1 週)

防災計画、防災教育、防災訓練、災害時備蓄の推奨

●川崎市の対応：被害想定震度 6 強 (死亡 1 2 0 0 人前後)

防災計画、防災教育、防災訓練、災害時備蓄の推奨

●幸区の対応：震度 6 弱以上で有事組織に移行対応、発災 3 日後)

22 カ所の避難所の運用を基本とした組織、マニュアル作成、訓練

幸区本部

各避難所に職員派遣(専門家、作業員として数合わせの一般職員)

↓ ↑

「御幸中学校」

(責任者序列 1 幸区職員 2 学校長 3 町内会代表)

①避難所は中間指揮所(本部と町内会の情報伝達、共有のパイプ役)

②任務：避難者受入れ(避難所外避難者、要配慮者、負傷者のトリアージ)

↓↓

：避難者の生活支援(宿泊、物資、トイレ、水道、電気。医療は?)

：避難者、避難所外避難者の名簿作成(紙媒体)

戸手多摩川町内会

避難所と各マンション理事会とのパイプ役

各マンション理事会

避難所外避難者の名簿作成